

---

## 運動負荷でアナフィラキシーを呈したコリン性蕁麻疹の 1 例

住谷 惇治、吉谷 州太、水野 嵩彬、駒井 宏行、小野 祥子、  
宗元 紗和、福永 淳、森脇 真一  
( 大阪医科薬科大学病院 皮膚科 )

---

19 歳女性。幼少期よりアトピー性皮膚炎があり、初診約 2 年前から入浴時や運動時に体幹・四肢に蕁麻疹と眼瞼浮腫が出現するようになった。初診約 1 カ月前、入浴後に蕁麻疹と腹痛、呼吸器症状が出現したため前医救急外来を受診し、アナフィラキシーと診断された。蕁麻疹とアナフィラキシーに対する精査目的で当科紹介となり、発汗刺激に伴い小型の膨疹が出現する経過から、コリン性蕁麻疹を疑った。入院のうえ運動負荷試験(Bruce 法)を行い、体幹・四肢に点状の浮腫性紅斑と眼瞼浮腫が誘発されたため、コリン性蕁麻疹と診断した。負荷試験終了約 20 分後に鼻汁と呼吸困難感、腹痛が出現。アナフィラキシーと診断し、アドレナリン筋肉注射とステロイド、抗ヒスタミン薬の点滴を行うも症状が持続したため、約 15 分後に 2 回目のアドレナリン筋肉注射を行った。その後は症状改善傾向となり、退院となった。コリン性蕁麻疹の治療として、退院時より 2 剤の H1 受容体拮抗薬と H2 受容体拮抗薬の併用を開始し、蕁麻疹の病勢コントロールは改善された。コリン性蕁麻疹にはいくつかのサブタイプがあるが、本症例は中でもアナフィラキシーを合併しやすい重症型である眼瞼の血管性浮腫を伴うコリン性蕁麻疹と考えた。コリン性蕁麻疹のサブタイプ分類や診断法、治療について文献的考察を加えて報告する。